



# 学校だより

9月号

平成28年8月30日  
横浜市立善部小学校  
校長 小澤 紀子



グリーンカーテン

## 学校に元気な声が戻ってきました！

学校長 小澤 紀子

今年も暑く、そして熱い夏でした。4年に一度のオリンピックに深夜までテレビを見続け、そしてまた早朝から応援し、寝不足の夏を過ごしました。ようやく日々のリズムを取り戻し、子どもたちの登校を心待ちにしておりました。各ご家庭ではどのようにお過ごしだったのでしょうか？

テレビでは連日、各選手の活躍や初のメダルの数々など話題沸騰でした。心に残る場面もたくさんありました。メダリストも惜しくもメダルをとれなかった方々も、これまでの長い努力の積み重ねがあつての出場ですから、最大の賛辞を贈りたいと思います。4年間、いやこの競技を始めてからずっと思い描いていたという話を聞くと、その思いは強くなります。夢（目標）をもつこと、粘り強く努力を重ねること、最後まであきらめないこと、自分や仲間を信じること、そして、謙虚に支えてくれる回りの人々や環境に感謝すること。アスリートたちの言葉からは、スポーツに限らず、全てのことに通じる大切なことを学び、めざしたい子どもたちの未来の姿のように感じました。

この夏、同じように長い間夢をもち、努力を重ねてきた一人の方に出会えました。本校の卒業生、三輪波留加さんです。平成17年にジュニアボランティアに参加した彼女は、現在、全国社会福祉協議会職員として、福祉に関わる仕事で活躍しています。ジュニアボランティア体験事業とは、旭区独自の活動で16年の歴史があります。民生委員・児童委員・主任児童委員のみなさんと一緒に自分たちの住んでいる街で、ボランティア活動や地域活動を行っています。本校でも毎年5・6年生が参加して様々な活動に取り組んでいます。今年も8月1日に就任式が行われ、旭区長から参加賞が交付されました。その研修会でお話してくださったのが三輪さんです。ジュニアボランティアをひとつのきっかけとして、福祉に関わる仕事をめざし、人々を支えたい、地域の方々にご恩返しをしたいという願いをもち、夢を実現させました。『自分から声をかけること。人によって感じ方や考え方はそれぞれ違うこと。人の話をよく聞くこと。そして行動に移すこと。』ボランティアだけでなく、人と人との関わりで大切なことを具体的にわかりやすく教えてくれる素敵なお話でした。

卒業生の活躍も嬉しいことですが、在校生も頑張っています。ご紹介します。

前述のジュニアボランティアには今年も14名の5・6年生が参加して、夏休みに活動しました。車椅子の使い方を学んだり、施設や保育園を訪問したりしました。この後、赤い羽根共同募金や福祉まつりに参加します。

夏休み水泳教室は、あいにくの天気ではわずかな日数でしたが、たくさんの子が練習に参加し、30名が旭区水泳大会に出場しました。自己ベストをめざし、友達を応援し、他の学校との交流を深める機会となりました。そして、50M自由形の旭区代表に選出された6年の姫野恒太さんが、国際プールで行われた横浜市児童水泳大会に出場しました。旭区みんなの声援を受けて、きれいなフォームで泳ぎきり、見事に自己ベストを出すことができました。

6月には旭区の国際平和スピーチコンテストが旭公会堂で行われ、亀川莉央さんが「助け合いが平和への第一歩」というスピーチを行いました。「自分のできることで助け合いを行おう」という思いを自分の言葉で堂々と発表し、大変すばらしかったです。また、「横浜子ども会議」では、「だれもが安心して生活できる いじめがない子ども社会をつくろう」というテーマで、まず6年和田杏香さんと牧野あかりさんが中学校ブロックで具体の取組を話し合い、さらに旭区全体での話合いに和田さんが参加します。いじめをなくす取組を通して、主体的に判断・行動する姿をめざします。

地域の方々を中心になって行われた夏休み学習教室にも、たくさんの方が参加がありました。運営・準備等にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

子どもたちの確かな行動が未来につながっていくことを確信し、前期後半スタートいたしました。